

ファイナルレポート

国際コンポーネント・システム・アプリケーション専門見本市

2024年11月12日～15日

メッセ・ミュンヘン

2024年11月15日

electronica 2024

世界をリードする見本市として業界の革新力を十分に披露

Summary

- 出展者数は3,480社、来場者数は約8万人
- かつてないほど国際的広がりを見せる
- All Electric Societyのグローバル・プラットフォームとしての地位を確立



Facts & Data

会期	2024年11月12日(火)～15日(金) 午前9時～午後6時(最終日のみ午後3時まで)
会場	メッセ・ミュンヘン
主催	メッセ・ミュンヘン(Messe München GmbH)
規模	全18ホール 192,000 m ² (2022年:全14ホール 150,000 m ²)
出展企業	59カ国から3,480社(2022年:51カ国から2,140社)
来場者総数	100カ国から80,000人(2022年:69,783人)
専門分野	エレクトロニクス、電子工学
主な出展品	半導体、エンベデッドシステム、ディスプレイ、マイクロナノ・システム(MEMS、マイクロ製造)、センサー技術、検査・測定技術、電子設計(ED/EDA)、受動部品、電気機械技術/システム/周辺機器(スイッチ&キーボード、配線部品/システム、ケーシング技術)、パワーサプライ、プリント基板・その他回路基材、受託製造サービス(EMS)、アSEMBリ/サブシステム、オートモーティブ・エレクトロニクス、ワイヤレス技術、情報収集システム 対象業界:産業電子機器、オートモーティブ、鉄道技術電子機器、通信(有線)、無線、家電・娯楽製品、その他民生電子機器、事務・情報処理機器、医療電子技術、航空・宇宙・軍用電子機器
専用URL	www.electronica.de (英語/ドイツ語)

ミュンヘンで開催された **electronica 2024** では、世界規模のエレクトロニクス産業が、18 の展示ホールで、デジタル技術がカーボンニュートラルの未来を実現する鍵であることを明確に示した。11 月 12 日から 15 日にかけて、出展者 3,480 社が約 8 万人の来場者に向けて、エレクトロニクスの全領域にわたるイノベーションを紹介した。サステナビリティに加えて、人工知能、モビリティの未来、若い才能の育成といった重要なトピックが、展示ブースや広範なサポートプログラムを通じて活発な議論を巻き起こした。また、SEMICON Europa が 2 つのホールで併行開催され、同様に成功を収めた。

メッセ・ミュンヘンの CEO ラインハルト・ファイファーは、成功裏に終えた 4 日間の見本市を振り返って、「electronica は、この 60 年間、世界のエレクトロニクス産業の中心的な会合の場となっている。主要なテクノロジーハブであるミュンヘンで開催された今年の見本市は、業界の革新的な強さを改めて印象づけるものとなった。来場者は、インテリジェント・エネルギー・ソリューションからスマート・モビリティまで、未来のテクノロジーが既に形作られている様子やその実現にエレクトロニクス産業が果たす重要な役割を直接見る事ができた」と述べる。



ドイツ電気・デジタル産業協会(ZVEI)会長の Gunther Kegel 氏は、業界の現状について、エレクトロニクス・デジタル産業は厳しい時期あるものの、現在の経済減速が、電化、デジタル化、自動化というメガトレンドや All Electric Society(全電化社会)のビジョンを損なうものではないとの見解を示し、「ドイツでは数年間好調だった後、売上が大幅に減少したエレクトロニクス・コンポーネント部門も回復の兆しが見えている。重要なのは、ドイツの枠組み条件が速やかに改善されることだ」と述べる。

ホールの **electronica** スピリット

展示ディレクターの Katja Stolle は、「electronica 2024 は、これまで以上に国際色豊かであった。パンデミック前と同じ高いレベルの見本市が再び開催され、厳しい時期にもかかわらず非常に前向きな雰囲気であったことを嬉しく思う」と述べ、そして、12 月に **electronica** の運営を引き継ぐ予定の展示会副ディレクターの Caroline Pannier が、「会場内を歩き、皆さんと対話をして、**electronica** の真の精神を改めて感じることができた」と付け加えた。見本市アンケートの結果も、参加者がいかに見本市に満足していたかを裏付けている。

electronica 諮問委員会会長で HARTING Technology Group の CEO Philip Harting 氏は、「**electronica 2024** は、60 周年の節目にあって、展示ホールは完売、顧客との質の高い商談、最高の来場者数といった素晴らしい成果を上げた」と述べ、「**electronica** は、世界中のエレクトロニクス産業にとっての道標であり、ダイナミックで革新的な原動力だ。我々は今から **electronica 2026** を楽しみにしている」と括った。



見本市は最高のスタート

見本市の前日には 2 つのプログラムが開催され、**electronica** の力強いスタート態勢が整えられた。**electronica Automotive Conference** では、サプライチェーン全体から国際的な専門家やリーダーが一堂に会し、業界が現在直面している課題について議論がなされた。夜には、『CEO Roundtable』が開催され、STMicroelectronics 社の Jean-Marc Chery 氏、Infineon Technologies 社の Jochen Hanebeck 氏、NXP Semiconductors 社の Kurt Sievers 氏が参加し、特別ゲストとして Jaguar Land Rover 社インダストリアル・オペ



レーション担当のエグゼクティブ・ディレクター Barbara Bergmeier 氏を迎えた。とりわけ、半導体業界における国際協力の重要な役割を強調し、人工知能が安定したサプライチェーンの確保にどのように役立つかについて議論した。

知識の伝達と明日の才能

electronica の広範なサポートプログラムでは、豊富な専門家の洞察と新しい刺激が提供された。6つのステージで、エレクトロニクスのほぼすべての分野について、専門家によるアプリケーション志向のプレゼンテーションを通じて

深く知識を共有した。フォーラム・プログラムの新しい焦点には、AI Machine Learning、Industrial Control、Women in Tech が含まれていた。また、持続可能性と循環型経済も重要なトピックとして、プレゼンテーション、討論会、特別ツアーで取り上げられた。

もうひとつ重要なことは、「明日の才能」に焦点を当てたことである。Fast Forward プラットフォームでは、選ばれたスタートアップ企業にイノベーションを発表する場が提供され、Career Area では、パーソナライズされたアドバイスやオンラインジョブエクステンジを通じて、エレクトロニクス産業におけるキャリアの展望に関する洞察が提供された。そして、最終日には、生徒と学生向けの Young Talents Day が開催され、大きな反響を呼んだ。

SEMICON Europa が見本市を補完

electronica と併行して SEMICON Europa が開催され、並行する2つのホールで半導体製造に関する製品とソリューションが紹介された。SEMI Europe 社の社長 Laith Altimime 氏は、「SEMICON Europa は electronica と戦略的に共催され、サプライチェーン全体から業界リーダーが一堂に会して、半導体分野の持続的成長の促進に関する洞察を共有した。そして、記録的な来場者数や展示エリアの完売など、今年の成果に当社は喜びを隠せない」と述べている。

数字で見る electronica 2024

59の国と地域から出展者 3,480社が参加し、そのうち76%が海外から。来場者は約100の国と地域から約80,000人で、海外からの割合は54%。来場者数のドイツに次ぐ上位10カ国は、イタリア、中国、フランス、オーストリア、イギリス、スイス、アメリカ、スペイン、オランダ、ポーランド。



次回の electronica は 2026 年 11 月 10 日から 13 日、ドイツ・ミュンヘンにて開催される。詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.electronica.de をご参照ください。

electronica 2024 主な日系出展社(50 音順)

旭化成エレクトロニクス(株)、(株)アトック、(株)アルコ・イーエックス、アルプスアルパイン(株)、公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構、イリソ電子工業(株)、岩崎通信機(株)、内橋エステック(株)、(株)SMI、エプソンアトミックス(株)、エレファンテック(株)、(株)大貫工業所、(株)オプトランス、オムロン(株)、加賀 FEI(株)、釜屋電機(株)、(有)川澄製作所、(株)キーエンス、菊水電子工業(株)、北川工業(株)、九州電通(株)、京セラ(株)、コア(株)、(株)宏機製作所、サガミエレク(株)、札幌市、サン電子工業(株)、JX 金属(株)、シチズンファインデバイス(株)、(株)芝浦電子、信越化学工業(株)、新電元工業(株)、進工業(株)、スマダコーポレーション(株)、セイコーエプソン(株)、セミテック(株)、ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)、第一精工(株)、(株)ダイイチ・ファブ・テック、太陽誘電(株)、(株)タカチ電機工業、立山科学工業(株)、(株)タムラ製作所、ツクルアジア(株)、TDK(株)、TDK ラムダ(株)、(株)テクニスコ、(株)東芝、東伸電子(株)、トレックス・セミコンダクター(株)、DOWA エレクトロニクス(株)、ナガセケムテックス(株)、(株)ニコン、ニチコン(株)、日清紡マイクロデバイス(株)、(株)ニッポンインダストリーズ、日本ケミコン(株)、日本航空電子工業(株)、日本電気硝子(株)、日本電波工業(株)、(株)日本ファインケム、(株)ネクステッジテクノロジー、ハギワラソリューションズ(株)、(株)橋本ブラシ製作所、浜松ホトニクス(株)、(株)ハリガイ工業、パナソニックインダストリー(株)、ヒロセ電機(株)、福井鋸螺(株)、ファインケクス(株)、(株)ベテル、北陸電気工業(株)、北海道大学、(株)松尾製作所、丸紅(株)、(株)村田製作所、(有)メガテック、山一電機(株)、ヤマハロボティクスホールディングス(株)、(株)ヨコオ、横河電機(株)、RAMXEED(株)、ルネサス エレクトロニクス(株)、ルビコン(株)、ローム(株) ほか

SEMICON EUROPA 2024 主な日系出展社(50 音順)

ATS ジャパン(株)、旭ダイヤモンド工業(株)、アズビル(株)、アルバック機工(株)、(株)荏原製作所、檜山工業(株)、兼松(株)、(株)キーエンス、(株)キッツエスシーティー、(株)クリエイティブテクノロジー、(株)KOKUSAI ELECTRIC、サムコ(株)、積水化学工業(株)、芝浦メカトロニクス(株)、(株)潤工社、住友重機械工業(株)、仙台スマートマシーンス(株)、(株)清和光学製作所、(株)ダイフク、大陽日酸(株)、テクノホライゾン(株)、東北大学マイクロシステム融合研究開発センター、東レエンジニアリング(株)、長野計器(株)、(株)ニコン、(株)日本マイクロニクス、浜松ホトニクス(株)、(株)フジキン、富士フイルム エレクトロニクスマテリアルズ(株)、(株)フェローテックホールディングス、ボールウェーブ(株)、(株)堀場製作所、(株)ミットヨ、三菱ケミカル(株)、ミライアル(株)、(株)ヨコオ、理研計器(株)、リンテック(株)、(有)ワイ・システムズ ほか

資料請求、各種お問い合わせ先:

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーケード虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 e-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)